

H27・28度「英語教育強化地域拠点事業」地域の小学校における教科化に向けた実践・検証(イメージ)

小学校5・6年生の外国語活動:週1コマ
(Hi, friends!2のイメージ)

小学校5・6年生の教科型の授業:週2～3コマ程度
(Hi, friends!+補助教材+独自教材)

| 単元名 | 題材 | 目標例 |
|------------|-------------|---|
| Lesson 1 | 文字・言語 | 積極的に数字やアルファベット、世界の文字について尋ねたり答えたりする。 |
| Lesson 2 | 行事・月日 | 世界の行事や習慣と、日本の祭りや行事を月ごとに取り上げ、友達と積極的に英語で話す。 |
| Lesson 3 | スポーツ・動作 | スポーツなどできることを積極的に友達と尋ねたり答えたりする。 |
| Lesson 4 | 建物・道案内 | 積極的に行き方を尋ねたり道案内をしたりしようとする。 |
| Lesson 5・6 | 世界の国々・生活 | 自分の思いが伝わるように世界の国、生活、時差などを発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりする。 |
| Lesson 7 | 日本の童話・世界の童話 | 英語で物語の内容を伝えようとする。まとまった話を聞いて内容がわかり、場面にあった台詞を考えて言えるようにする。 |
| Lesson 8 | 職業・将来の夢 | どんな職業につきたいか友達に尋ねたり答えたりする。世界の同年代の子供たちの夢を知り、自分の「夢宣言」をする。 |

新たな目標:身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う

教科化に向けて、26年度中に補助教材を作成・配布

- ◎ アルファベットの文字や単語などの認識
- ◎ 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き
- ◎ 語順の違いなど文構造への気付き

➤自信をもって英語で積極的に「聞く」「話す」ことができ、「読む」「書く」ことへの興味を育てるようにする。

※小学校段階の語彙数は400程度を想定しているが、今後、拠点地域の研究開発校などにおいて実証し、中央教育審議会において検討

◎ 題材の充実(例)

日本の行事に加え、地元の伝統行事、文化財、地場産物など、英語を通じて「ふるさとの魅力」に興味を持ち、自分なりに英語で説明できるようにする。



アルファベットの文字の認識

ワークシート

【ホームページに掲載されたワークシートを使い、繰り返し練習することで、アルファベットの文字や単語への認識を高める】

ワークシート①
アルファベットの大文字の認識

Hi, friends!で扱ったイラストと関連付けて「読む」「書く」ことに慣れ親しむ

ワークシート②
アルファベットの大小文字の認識

YAMADA Taku

ワークシート③
アルファベットの文字の探知・単語の認識

apple ant cat
bear box bag
cat cap car
dog onut desk
elephant egg pen

アルファベットの文字をまとめて書く練習、単語の中の文字をなぞり書きすることで、単語に慣れ親しむ

デジタル教材

【ネイティブの発音とともに、アルファベットの文字の書き方を視覚的に修得する】

デジタル教材

アルファベット

B I

デジタル教材

【一部が隠れたアルファベットの文字を見せて、アルファベットの文字を推測するゲームを通して、アルファベットの文字に対する認識を高める】

クイズ3

アルファベット文字当て 懐中電灯

ANSWER

A
シャッフル

Q
シャッフル

デジタル教材

日本語と英語の音声の違いや特徴への気付き

【デジタル教材でネイティブの発音に触れながら、アルファベットの文字には、読み方と音があることを知るとともに、様々な単語を言ったり聞いたりすることでアルファベットの音に慣れ親しむ】

ワークシート

ワークシート①-1

アルファベットの文字の認識・音の認識

| | | | | |
|-------|-----|-----|-----|----------|
| A a | B b | C c | D d | E e |
| apple | be | cat | dog | elephant |

ワークシート①-2

動物類

アルファベットの文字の認識・音の認識

| | | | | |
|-------|---------|--------|--------|----------|
| A a | B b | C c | D d | E e |
| ant | bear | cow | dog | elephant |
| fish | gorilla | horse | iguana | jaguar |
| koala | lion | monkey | newt | ox |
| pig | quail | rabbit | snake | tiger |
| duck | vulture | wolf | fox | yak |
| zebra | zoo | | | |

デジタル教材(ジングル)

動画

ジングル

Alphabet

ネイティブの音声で
b[bi:], b[b], b[b],
bear[béə]と音声か
流れる

Jingle

① ① (リピートA) ① (リピートB) ② ③

Play

あつろ ゆっくろ

全パート カラオケ

戻る

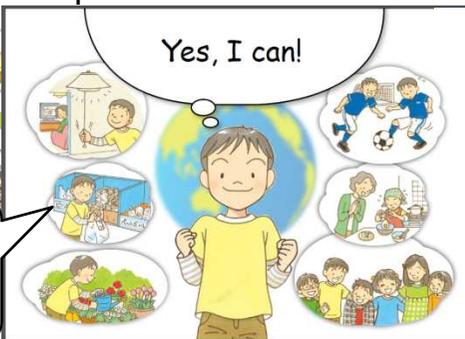
もどる

デジタル教材で視聴するジングルの歌詞は、家庭など、外国語の授業以外で子供たちが学習内容を振り返るのに役立つ。

語順の違いなどの文構造への気付き（絵本）

自己肯定感を高める教材

【人それぞれ、できることとできないことがあることに気付き、「I can」という表現を繰り返し「読んで」、自分に何ができるかを考えさせる。】



【例】
 児童: I can't play baseball.
 But I can help my mother.
 I can make my family happy.
 先生: That's wonderful.

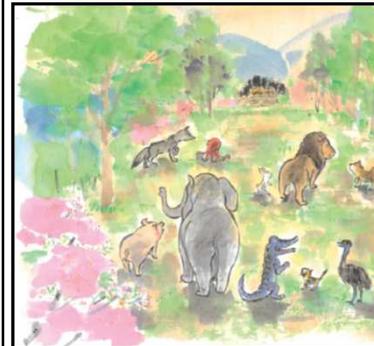
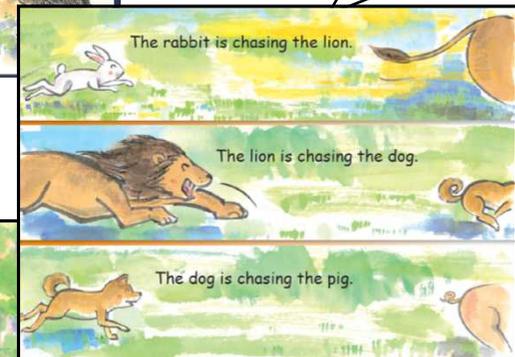
【例】
 先生: Can you play kendama?
 児童: Yes, I can. I can play kendama.
 先生: That's nice.
 I can't play kendama.

世界平和(友だちの大切さ)に関する教材

【動物たちが追いかっこをする様子を通し、仲間の大切さに気づくとともに、語順などの文構造についての気付きを促す。】



【例】
 先生: What animal is this?
 Can you guess?
 児童: Pig.
 先生: Really? Is this a pig?
 Let's check. Next page
 児童: Yes, pig!
 先生: Very good.



ワークシート①-1

| Grade | Class | Name |
|-------|-------|------|
| | | |

語順への気付き

Quiz! 先生が言う英語にあう絵は、どちらかな。

No.1

No.2

【例】
 先生: Listen to me carefully.
 The pig is chasing the elephant.
 Which one? No. 1 or No. 2?
 児童: No. 1.
 先生: That's right. No. 1.
 'The pig is chasing the elephant'
 is No.1

外国語活動教材の現状と高学年教科教材の在り方

(「英語教育の在り方に関する有識者会議審議(平成26年9月26日)」報告)

現状・課題

- 小学校における外国語活動においては、国により作成された小学校外国語活動教材例、「Hi, friends!」が希望する約2万校の学校に配布され、地域、学校、学級の実態に合わせて工夫・活用がなされている。また、児童の多くが外国語活動の授業や外国語学習に対して肯定的であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されてきている。
- 中1 対象による調査では、外国語活動の授業で、「もっと学習しておきたかったこと」の回答の割合として、「英語の単語を読むこと」が77.9%、「英語の単語を書くこと」が81.7%、「英文を読むこと」が77.6%、「英文を書くこと」が78.6%であり、音声中心の活動に比べ、10ポイントほど高い数値である。小学校の外国語活動で音声中心に学んだことが、中学校での段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、発音と綴(つづ)りの関係の学習や文構造の学習に課題があるなどの指摘があった。
- このような状況を踏まえ、小学校の外国語活動が導入されて一定の成果を上げているものの、中学校での学習への円滑な接続を考えると、小学校高学年段階において、文字の扱いや文構造への気付きなど、中学校との接続を意識した指導に有効な教科書・教材が必要である。

今後の方向性

- 先進的な取組も含めたこれまでの外国語活動の成果・課題を踏まえ、小学校中学年では、発達段階に応じた外国語活動に必要な教材の開発を行う。小学校高学年では、教科化に伴って教科書の整備が必要となる。また、教科化され、教科書が整備されるまでの間、国において、中学校との円滑な接続を意識した補助教材、及び新たな教材を作成する。
- 補助教材については、アルファベット文字の認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴、文構造への気付きを促す指導ができるようなものとし、高学年における外国語の教科化において求められる教材等として、国の「英語教育強化地域拠点事業」における研究開発校等において、平成27年度より試行的に活用しながら、その効果を検証する。さらに、その検証結果を、小学校高学年の教科化に向け、新学習指導要領移行期に各学校において活用することを想定した新たな教材開発に生かすものとする。